

平成24年度 第4回CCC芸術系グループ運営委員会 議事概要

I. 日 時：平成24年9月26日（水）15:00～19:45

II. 場 所：私立大学情報教育協会 事務局 会議室

III. 出席者：有馬委員、久原委員、西垣委員、小川委員（ネット）、宮田委員（ネット）
（事務局）井端事務局長、森下主幹、松本職員

IV. 検討事項

検討の前に、「美術・デザイン」は、「芸術学（美術・デザイン分野）」に統一することを確認し、すべての資料を修正することとした。

1. 学士力の考察の解説編集について

すでにまとまった他分野の解説が事務局より紹介された後「美術・デザインにおける学士力の考察」の全体解説の作成と、到達目標ごとに5行程度の解説文の作成を行った。

2. 学士力の考察について

全体説明文編集の内容

まず原案作成者の委員より説明があり内容の検討に入った。検討内容は ①学問分野としての目的 ②分野の教育上の目的 ③目的達成のための到達目標 の順で述べることとした。はじめの段落は、芸術学として捉える必要があるため ①学問分野としての目的は、「社会でどういう役割を果たすのか」を主なテーマとして検討を行った。また歴史的背景で切り込むことは様々な意見・批判を浴びることが予想されるために避けることとし、先に芸術と人間との諸側面を統合する役割を担う内容の検討を行った。ここでは特殊な述べ方は避け、「身体・五感・感情・知」のキーワードを「知性・感性」、「身体性」にまとめることにした。次の段落でグローバル化について述べることとした。以上により1・2段落目は原案の1段落目の趣旨にある知性・感性の協働を生かし編集作業を行った。先に芸術学の役割を述べたので、次に美術・デザイン分野について述べることとした。

②分野の教育上の目的

原案を基本に述べることとし1、2行目は削除し主観的な表現は避け原文の部分修正を行い、後半部分は個人の価値観を述べるとして編集作業を行った。

③目的達成のための到達目標

到達目標の1～3の内容を要約し1文章にまとめ最後の段落に加えた。以上、全体説明文編集終了後、ネット参加委員が最終確認を行い、指摘部分の修正を行った。

3. 到達目標1について解説編集の検討内容

原文の1行目にある「創造的活力や心の豊かさ、物事に対する理解力は目指す内容なので後に移動し、「何を理解させるのか」が不足しているため、自己満足や既成概念から脱却するなど同様な表

現は何かを検討し「固定観念から脱却させる」とした。その理解させる内容は、柔軟な思考で新たな可能性を模索させるため、当事者ではなく第三者の立場から観察する必要があることから「客観的な観点から」として述べることにした。次の目指す内容に述べている体系づけられた知識と研究方法は、コア・カリキュラムで述べているので基礎・教養としてまとめて述べることにした。

4. 到達目標2について解説編集の検討内容

原文1行目の「考え方を進化させることを目指す」は理解させる表現が必要であるため「できるようにさせるため」とし、「考え方を深化させねばならない」と変更した。学士力の到達目標・到達度③の文章を参考にして「視野を広げる」と述べることにした。教育内容は到達目標にある「創作」を述べ、次に到達度②述べている「分析」を使い、原文1行目の「感受性を高める」をこの次に移動した。

5. 到達目標3について解説編集の検討内容

理解させる内容は、「社会貢献に寄与すること」及び「その役割」について述べることにした。教育内容については専門の理論の例が必要であることから、コア・カリキュラムのイメージで述べている歴史・方法・手段や構成とし、専門技術は同様にデッサン、アートプログラミングなどとして述べることにした。

6. 教育改善モデルの編集について

時間切れにより検討ができなかったため、作業及び最終的な文言の見直しは、メーリングリストにて教育改善モデル（2案）と教員の教育力のファイルを、10月1日（月）までに見直しを含め確認することにした。加えて昨年度まとめた教育改善モデル2案は、さらにわかりやすくするため概念図を追加することとした。図の作成は10月1日（月）までに事務局に提出し、事務局が確認の上モデルに追加し最終案として各委員に送ることとした。

作成内容は以下のとおり。

・教育改善モデル（その1）

「2.3 授業にICTを活用したシナリオ」を具体化するためを作図する。

・教育改善モデル（その2）

「2.2 授業の仕組み」を具体化するためを作図する。

以上